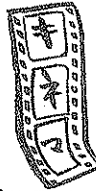


“恵那で映画を” と叫んで3年目!!





えな

No. 19

発行/えな「心の合併」プロジェクト代表 小坂潤示
電話/0573 (26) 1211 恵那商工会議所内

石の上にも3年。今年、冷たい石がやつとアツくなるが！3年目のえな「心の合併」プロジェクト（以下「えなここ」）は、久しぶりに林監督を迎え、サポーター1人ひとりが、えなここに対する思いを改めて語り合いました。

●なぜこの会をやっているか、何を目的にしているか。それは、この会に入った時に副代表が「恵那は合併したけど一体感が全くない。もつとみんなが一つになれるように映画を通してそういうまちづくりがしたい」と言われたのを聞いて、それが出来るといいなと思っただけでここにいます。

●どういう映画を作るのか、細かい事が明確でないから、スタートした時を再確認する必要があります。

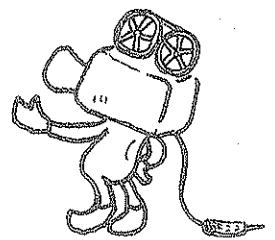
●大半の人は「映画をつくるぞ」それだけではついていけないんです。映画とはどういうものか、まだ全然分からないし。

●山登りをして、頂上が見えるんだけど、どうすれば辿り着けるかわからない状態。山あれば谷もあり、今は谷の部分に来ていると私は考えています。

●脚本の会議では、ただ座っているだけで何も出来ないの、正直なところ参加する意欲がなくなっていました。ただ座っていただけで、何をしようか動いているのかを最後まで助け合っていければいいなと思っています。

●今この状態がいい修行だと思っています。出来上がった感動をメンバーだけじゃなく日本中の人に分かってもらえるようなスケールのでかい映画ができて、子ども達が恵那を自慢出来るようになればと考えています。

●皆さんが楽しそうに盛り上がっている姿を見て、私も一緒に楽しく出来たらいいなあと思っただけで参加しました。でも誰かが欠けて、それでも何の関係もなく物事が進んでいく、それを見たときに、一人ひとりのメンバーの心が大事にされて、恵那市全体の人につながっていくと思っただけだったので、少し寂しい気がします。



●新しい人がこのプロジェクトに入って来た時に、一生懸命その子を盛り上げるんですけど、なかなか入りきれないなあってのがあるんです。

●えなここはボランティアで、個人個人がやりたいから集まっているんです。僕らは自分達が楽しみながら、みんなも巻き込んで、この活動を広げていくことが、まちづくりの第一歩になるという思いです。同時に地域に対して映画でまちづくりをする、と伝えてしまっている以上、責任も生じているわけです。

●上に立つ者がちゃんと意識を持って、しっかりと道先を作っていく形のほうがいいのかなと思っただけです。

●皆さんの意見を聞いて、あえて言わせてもらえば、えなここは会社のようなしっかりとした組織ではないと思います。きちっと物事を決めながら一歩ずつ進んでいくというのは本当に難しい。代表として、ある程度の先のビジョンを作りながら伝えていくことをしておけばよかったと反省しています。

●私は外から来た人間なので、恵那のことをさっぱり知らず



に入っただけじゃなく、いろいろな人と出会うことが出来たので、すごく素敵な会だと思っています。



●僕は途中で参加。外から見ていて感じたのは、イベントとかで映画づくりの資金を集めてるのは分かるけど、なぜ映画をつくるのかが見ている人に伝わってこない。映画とやりたい事つながりが分かりづらい。もっとえなここ以外の人を盛り上げて市民運動みたいになれば成功するんじゃないかと思えます。



●僕はよんで屋（広報部会）にいます。この活動が生活の一部のようになっています。やっぱり映画は作りたいたい、最後までやりたいと思います。全体を見ると、温度差みたいなものがあるのでは。広報やってて思うのは、全体の動きが分かる人と分からない人の差がすごく出始め



●僕の中で仲間意識があつて、恵那で何か役割を果たしたい、みんなと映画をつくりたいという思いがずっとあります。実際、よそ者ではあるんだけど、参加した以上は正直に僕の熱い思いを伝えたい。でもちょっと遠慮して、監督としての発言ができてなかったと反省しているん

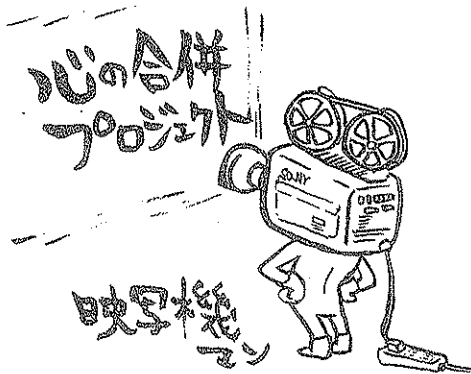
てる。それは僕らが頑張らないといけない所なので、責任を感じていきます。ただ情報が伝わっていない。どこまで決まってるのかわかんない所が参加しづらくなる要因の一つかなあと思っています。



●よんで屋のメンバーでは決定権がないから会議の内容をどこまで外に出していいものかわかんない事が悩みです。よんで屋に足を運んでいて私でさえ、よく分からないのに、そんなに周りの人達にどうやって身近に感じてもらうのが難しいです。



●僕の中で仲間意識があつて、恵那で何か役割を果たしたい、みんなと映画をつくりたいという思いがずっとあります。実際、よそ者ではあるんだけど、参加した以上は正直に僕の熱い思いを伝えたい。でもちょっと遠慮して、監督としての発言ができてなかったと反省しているん



です。まちづくりに関して言えば、何か「まちづくり」とか「地域」とかという、ほんやりしちゃう。でも心の支えになる身近な人のために働きかけることが、結果としてまちづくりになっていくと思う。「まちづくりのための映画」というスタン



スで映画は出来ない。映画づくりの先にまちづくりが自然に思ってくると思っています。

いろいろな人達が応援してくれて出来た映画が「あの人達、頑張ってたけど、映画はつまんなかったね」と言われたいように、映画監督として役割を果たしたい。お金がないとか何だとか言い訳せずにやれるよう、今日、改めて思いをリスタートさせようと思えます。ちよつと作戦を練って、またみんなと会議が出来るように準備をして、近いうちに恵那に

たいと思っています。



●僕らはある一つの思いで集まっている任意の団体ですから、みなさんの気持ちが集まるとなかなかな前には進めません。皆さんのお知恵をお借りして今後の事業計画を詰め直し、どこに着地点を持つていって、どうすれば飛べるのかを明確にしていきたいと思えます。



ともあれ映画は絶対につくりま。世間じや暗い話ばかりだけど、僕らはバカと笑われてもいいから、映画づくりで「恵那だけは妙にいつも元気だね」と言われたい。みんな元気な映画をつくってさ、50年後の恵那市民がそれを見て「おーっ、こいつらメチャ勢いがあるてえー」なんて羨ましがって、ついでに「よつしや、ほんなら俺らも一つつくったるか」とか言わせてみたいね(笑)。

●「映画」と聞いたら、えなここの生き残りがシャシャリ出てきたりして「金策以外なら何でもワシに聞け」とか言ってる50年後の若者に、うっとおしげられるだろうね(笑)。